

国語 第3学年 心が動いたことを詩で表そう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある6月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「そのときの感じが伝わる言葉をどこに置くか」を問い、心が動いた場面の言葉を集め、順序や表現を工夫して詩を書き直す。詩の初稿と改稿の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)ア	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(2)ウ	ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、考えや思いを表す言葉の働きに気付き、選んだ言葉で何が伝わるかを確認めている。思考・判断・表現では、心が動いた場面の言葉を集め、順序や表現を工夫して詩を書き直す。交流や試行の前後を比べ、詩の初稿と改稿を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えや思いを表す言葉の働きに気付き、選んだ言葉で何が伝わるかを確認めている。〔〔知識及び技能〕(1)ア〕	①「書くこと」において、心が動いた場面の言葉を集め、順序や表現を工夫して詩を書き直している。 (B(1)ア・B(1)エ・B(2)ウ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○心が動いた経験を言葉にすることに関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す詩の初稿と改稿の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2～5 （本時は5時）	○心が動いた場面の言葉を集め、順序や表現を工夫して詩を書き直す。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○そのときの感じが伝わる言葉をどこに置くかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	6	○詩の初稿と改稿を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：心が動いた場面の言葉を集め、順序や表現を工夫して詩を書き直すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「そのときの感じが伝わる言葉をどこに置くか」 【めあて】心が動いた経験を言葉にすることについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・気持ちの名前より見えた様子を書くと言わる。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。感情の名前だけを書く姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 （ 分）	2 心が動いた場面の言葉を集め、順序や表現を工夫して詩を書き直す。 3 書いたものを読み返し、「そのときの感じが伝わる言葉をどこに置くか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 〈予想される児童の反応〉 ・気持ちの名前より見えた様子を書くと言わる。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	見えたものや聞こえた音など経験の具体を思い出す。知識・技能では、考えや思いを表す言葉の働きに気づき、選んだ言葉で何が伝わるかを確かめている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①心が動いた場面の言葉を集め、順序や表現を工夫して詩を書き直している。 （B(1)ア・B(1)エ・B(2)ウ）（初稿・見直した稿・修正理由）
まとめ （ 分）	5 詩の初稿と改稿を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】書いたものを読み手の立場で確かめ、目的に合う言葉や構成へ直すと、伝えたい内容が明確になる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。そのときの感じが伝わる言葉をどこに置くかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（詩の初稿と改稿と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には心が動いた経験を言葉にすることを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に詩の初稿と改稿で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、感情の名前だけを書くことである。見えたものや聞こえた音など経験の具体を思い出す。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

詩の初稿と改稿

「そのときの感じが伝わる言葉をどこに置くか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。見えたものや聞こえた音など経験の具体を思い出すための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_3_202503.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重